
叶わない恋

和茶巢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

叶わない恋

【Nコード】

N6712Y

【作者名】

和茶巢

【あらすじ】

何をやるにもやる気がなかったある男子。

中学に入り部活紹介の時にみた吹奏楽部に衝撃を受ける

その先生に恋した生徒の話。

そんな、BLな物語です。

大阪の学校なのでほぼ大阪弁になると思いますww

プロローグ

俺には好きな人がいる。

その恋は絶対になわれない。

自分ではわかっている。

だけど、何度も何度も諦めようとしても駄目だった。

なんで、俺はこの人に恋をしたんだろ？

あなたの目には俺はどんな風に映っていますか？

やっぱり、ただの生徒にしか見れないですね？

もし、ちがう存在に映っているなら俺は死ぬほど嬉しいです。

どうすれば、好きになってくれますか？

頑張ってる子が好きって言ってましたね。

すごく頑張れば誉めてくれますか？

好きになってくれますか？

大好きです先生。

こんなに人を思うのは初めてです。

なので、俺を好きになって下さい。

お願いします。

それが、ぼくの願いです。

始まり（前書き）

長嶋 晃（ながしま あきら）

この物語の主人公

何をやるにもやる気がでなかった。

中学に入り部活紹介の時にみた吹奏楽部に衝撃を受け、入る事を決心する。

普段はテンションが高くてイタイところもあるが、皆に好かれてい

常にメガネをかけている。

始まり

俺は中学に入って何もやる気はなかった。
いつもの何も無い日々。
正直言っただけだ。

次の時間は部活紹介らしい。
俺は体育館へと足を動かした。

俺は衝撃を受けた。
お世辞にも上手いとも言えないが、かっこいいと思った。
俺はこの部活に入ろうと決心した。

タツタツタツ

「ようww お前はなんの部活にはいる?」

「俺は吹奏楽部に入ろうと思ってる」

「マジかよ! 意外だな!!」

「そうか? どっちにする俺は運動音痴だから、運動部は無理だし
ww」

「そうだよなww まあ、頑張れ！ 応援するからな！」

「サンキュー！ お前もがんばれよ！！！」

そう俺は決めた。

この部活に入って今までの自分を変えろと。
それが、すべての始まりだと知らずに。

出会い

「ああもう!!」

俺は完全に迷っていた。

「なんで、こんなに広いんだ!」

吹奏楽部に見学に行きたいのに今俺はどこにいるんだ?
地図手元にねえし!
どうしよう??

「はあ、ついてねえな...。」

バンッ

「痛っ!!」

俺は悩んでいると、誰かにぶつかったらしい。

「ああ!! ごめん! 君大丈夫?」

優しい声だな。

「ああ、俺は大丈夫です。俺の方こそすみません。よそ見して歩いていたんで。」

「よかった。それじゃね。」

あつ、この人!!

「ちょっと待って下さい!もしかして、さっき吹奏楽部の演奏で指揮をした人にはですか?」

「ん? ああそうだよ。どうして?」

やった!!

「今俺、見学に行こうと思ってたんですけど、道に迷って…」

「あつ、そうなんだ。ちょうど、俺も部室に行くからついておいで。」

あつ、優しい人だな…。

つか、この人身長ちっさいな。

「? どうかした?」

「あつ! 何でも無いです!」

「そう? ついておいで。」

「はい!」

部室へ

「そういえば、まだ名前を聞いていなかったね？ 名前なんていうんだい？」

「あっ、俺の名前は長嶋 晃っていいます！」

「長嶋かわかった。覚えておくよ。」

「よろしくお願いします！ ってあの、今さらなんですけど……。」
「どうした？」

「俺、先生の名前知らないんですけど……。」

「ああ、そういえば教えてなかったっけ。ごめんな。」

「いや、全然いいです！！ 謝らないでくださいっ！」

「はははっ 焦ってかわいいなww」

なっ／／／
この人！！

「からかわないでください！ それより名前を教えてください！！」

「ごめんごめんww 俺の名前は野川 新司 今、三年の理科を担当している、学年主任だ。」

学年主任って結構偉い人なんだな…。

「野川先生ですね！ 改めてよろしくお願いします!!」

「ああ。 つてもうつくからな。」

「はい!!」

普通に優しくてかっこいい人だな…。

「長嶋、驚くなよ。」

「へ？ 何がですか？」

そういつて、野川先生は音楽室のドアを開けた。

部室へ（後書き）

野川 新司 （のがわ しんじ）

三年の理科を担当している、学年主任の先生。

とても、生徒思いのとても優しい。

まだ、何か隠された事がいっぱいある謎の多い人物。

身長が男性なのに、164？しかもなく、身長が低いと言われると落ち込む。

部室での出来事

「いらっしゃい新しい一年生ボーイ！」

「たくさん部の活からこの部活を選んでくれた事に感謝するで！」

「君の瞳に乾杯」

「って、なんだよそれww」

そうやって先輩たちは騒いでいた。

そして、俺は固まっていた……。

そして、後ろからただならぬ殺気を感じた。

それを先輩が感じとったのか先輩たちはさっきまでのテンションじゃなくなつた。

「………………。なあ、皆俺は一年生の後ろからただならぬ殺気を感じんねんけど…………。」

「ああ。」

「…………。その一年生ごっちにおいで」

「…………ふえ？ あっはい。」ガッ

そう言っつて、先輩は俺の腕をつかんだ。
そして、俺だけ音楽室に入れられた。
そして、先輩は大声で叫んだ

「今だ！！ 部室のドアを閉める！！！！」

「アイアイサー！！」

先輩たちはいそいでドアを閉めようとした……。
だが、

ガツ

「お前ら……？ いったい、何をしているんだ？」

先生は笑顔でいつも以上に優しくいつている。
それがいつも以上に怖かった……。

「皆、今やることはわかるよな？」

「「おうー！！」

「せーの」

「「すみませんでした！！！！」

俺は初めてこんなにきれいな土下座を見たかもしれない…。

「はあ、わかったから進藤こいつに部活の紹介をしてこい。」

「わかりました。」

俺は部室の端のほうに呼ばれてこの部活の説明を聞いた。

他にも一年生が来たらしいが、今は各パートの練習を見に行ってるらしい。

「初めまして、俺はこの部活の部長をしています。進藤です。楽器はクラリネット吹いてます。」

「おいおい、進藤君？ 下の名前も言っでござらん？」

「なっ！！ 悠斗余計な事をゆうな！」

「ほらほら」

「薰…。ボソッ」

「えっ？」

「もうちょっと大きな声で！」

「ああもう、わかったがな！ かおるや！！ 進藤 薰！ これで

いいんやろ!」

「かおるん良くできました!」

「うるさい! っってお前もついでに自己紹介しとけ。」

「うつすww 俺は岡村 悠斗 副部長と皆のテンション上げていく係をしていますww 担当楽器はチューバやで よろしくな」

「悠斗そんな係はない。」

「わかつとるってww」

「まあ、よろしくな長嶋。」

「はい!」

楽しい先輩ばかりだなww
ちゃんと頑張ってみよう。

部室での出来事（後書き）

進藤 薫 しんとう かおる

三年生

この部活の部長をしている。

楽器はクラリネットを吹いていて、とても優しい。だが、怒ると怖い。

下の名前で呼ばれるのを嫌う。

悠斗とは仲が良く大抵は一緒にいる。

しかし、言い合いは毎日のようにしている。

よく、同期からは吹部のお母さんと呼ばれている。

岡村 悠斗 おかむら ゆうと

三年生

この部活の副部長をしている。

楽器はチューバを吹いている。

テンションが高く、緊張している人を見るとすぐにはぐしにいく。

普段は、こんな性格だか演奏が始まると、薫より怖くスイッチの切り替えがちゃんと出来る人。

優しく、一人一人ちゃんと見ている。

この部活で、薫と二人で夫婦と呼ばれている。

吹奏楽部の先輩

皆とても優しく、テンションが高く、団結力が高い。
なので、ふざける時も一緒だ。

パート紹介

「晃くんやつたけ？　今から、各パート紹介をするな」

そう言っつて岡村先輩は席を立った。

「まずは、俺のパートからいこう。」

そう言っつて、進藤先輩も席をたった。

「え〜！　かおるんのところからなん！」

「かおるん言っつな！　しゃあないやろ、俺のところからのほつが一番いいしお前のところからいっつてもあれやろww」

「なっ！？　まあ、お前が言っつんやつたら俺はついて行くけどなww」

「ありがとうな。」

なんと言っつか、仲が良いなww
つか、ラブラブ？

いや、それはねえか W W W W

「まあ、とりあえずいこうや」

そう言つて先輩は笑顔で俺にいった。

「はい！」

ガラッ

「にしても、晃くんラッキーボーイやな」

「まあ、確かにな W W」

「え？　なんでですか？」

「普通にきたやつは俺ら部長、副部長に会ってないねん。」

「そうなんですか？」

「そう緊急部活会議があつて俺たち一年生に会ってないんねん W W」

「だから君はラッキーボーイなんやねんな W W」

そう言つて、二人は笑つていた。

俺はラッキーボーイなんか？

そう思いながら先輩の話を聞いていた。

「おっ着いたぞ！」

「ここが、俺が担当しているクラリネットパートやで。」

「おじやます。」

「クラリネットは主にメロディーを担当している楽器や。そして、クラリネットより一回りぐらいデカイ楽器がバスクラリネット。クラリネットより低い音をだす楽器や。」

「つまり、バスクラリネットは低音楽器、クラリネットは高音楽器になるねん」

「へ〜」

「次はフルートパートに行こうか。」

「はい！」

そういつて、先輩は他に色々なパートを紹介してくれた。

「最後に、俺のパート行っちゃうで」

「はい！」

「悠斗のパートはチューバ。メロディーがなく、伴奏を主に担当している楽器やで。」

「つまり、縁の下の力持ちや、大黒柱、土台ってことやな！」

「へへ、すごいんですね。」

「ありがとう。」

「じゃあ、これで全部のパートを紹介したやんな？」

あれ？

あの楽器……。

まだ、紹介されてないよな？

「あの、すみません。あの楽器まだ紹介されてないです……。」

「ああ、あの楽器かいな。」

「んじゃ、紹介したるな。」

なんで、先輩たちはこの楽器を紹介しなかったんやろ？
ただ、忘れてただけやろうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6712y/>

叶わない恋

2011年11月26日23時51分発行